

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078800101		
法人名	社会福祉法人 やまと医正会		
事業所名	グループホーム敬和苑		
所在地	福岡県柳川市大和町栄220-2 (電話) 0944-76-5555		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 2 日	評価結果確定日	平成 26 年 1 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

“安全で安心できるケア、温かいまなざし・言葉のケア、敬う心で和やかな暮らしを提供すること”という事業所の基本理念に基づき、利用者の皆さまが笑顔で楽しく安心して過ごせるホームを目指しております。そのためにも、利用者の日々の状態を報告し合い情報共有し、より良いケアにつながるよう努めています。また、地域に根付いた法人で複数の事業所が併設され、各サービス事業所と連携をとっており、スムーズなサービス提供に繋がっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 11 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

有明沿岸道路や国道から入って直ぐの事業所は、地域に根ざしている母体法人の特養施設に併設され、和風平屋造りで落ち着いた趣がある。隣家からは少し離れているが、近くに町庁舎・中学校・工場などあり、細い掘割を経ると大きな町並みの眺望もあり、敷地の広さにはのどかに思える環境にある。明るく清潔な共用空間には、程よくソファ・テーブル・椅子が配置され、気の合う方々の話し声や笑顔、手作りの紙細工物が柔らかな空間として迎えてくれる。施設長・全職員は一人ひとりの利用者の気持ちを大切にしており、年間の内部研修を計画して、拘束委員会など人権の尊重や災害時の避難に懸命に取り組んでいる。理念の「安全」「安心」のできるケアを共有しサービスの質の向上に励んでいる事業所である。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝・夕の申し送り終了時にグループホーム理念および基本理念を唱和し、スタッフ全員が同じ気持ちで介護に取り組めるよう心掛けている。	全職員で話し合い、「地域の方々と交流を深め家庭的な環境の中で共に過ごしていけるよう、安全で安心、温かい心、利用者を愛し敬い、和やかな暮らしを支援する」と独自の理念を掲げ、日々唱和して共有し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1～2か月に1回慰問はあるが、日常的な交流はない。	利用者の体調面の関係で、地域活動には参加していないが、母体法人と合同の運動会や忘年会には地域に声をかけ、近隣からの参加やボランティアによる歌や体操、細工物展示がある。中高校生の体験実習を受け入れたり、園児・小学生の訪問、知人が立ち寄るなど交流と支援に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の職場体験の受け入れがあり、認知症高齢者に対する理解や日常生活をみてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議には、利用者・家族、民生委員、老人会の方に出席していただいている。スライドを利用して行事などホームの生活を報告、また認知症への理解を深めていただけるような勉強会を行っている。参加者から、意見や質問が上がり、それらはサービスの向上・改善に繋げている。	2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者サービスの実際をスライドで報告し、評価への取り組みや現状を話して、意見や助言、要望などを頂く。昨年大雨で大水が入った場合の避難訓練の必要性や手順方法について話し合う等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の福祉課や地域包括支援センターの職員に出席していただいている。行政側から現状の報告を受け、ホーム側からは取り組み等を伝えている。	、事業所の案内状を2ヶ月1回持参したり、報告・連絡・相談などで1ヶ月に2～3回は行政窓口に出向いたり電話で連絡を取るなど、関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会があり、スタッフ一人ひとりが身体拘束をしない介護を行っている。	法人全体で身体拘束委員会を作り、全職員に対し内部研修を行っている。マニュアルを作成しており、日中は居室・玄関に鍵はしていない。散歩等で近隣の人と会う事は余りないが、会えば声をかけ、話しをするなどの見守り・付添いをして、拘束のないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等において、何が虐待に当てはまるかを勉強している。自己の言動を振り返り、介護にあたっている。スタッフ間でも注意し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等において、成年後見制度について学習している。	全職員は権利擁護に関する制度について、内部研修を受け学んでいる。利用契約時、家族にパンフレットを用いて説明し渡している。必要時にはアドバイスをを行っている。研修記録がある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して、重要事項説明書などの書面を提示しその内容を説明し、理解・納得していただいている。また、説明書などの内容が変更になった場合や身体機能面等状況に変化があった場合も、家族の意向・要望などを確認しながら説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の寮母会議で疑問点や改善点を一同で検討し、業務に反映させている。また、日々のケアの中で利用者のケアに柔軟に対応できるように、適宜状況報告・意見交換を行っている。	利用者・家族は運営推進会議に参加し、思いや意見を述べるができる。「衣類を買いに車で行きたい」「職員同士の伝達方法」など忌憚のない意見に対応するなど、日常的に何でも話せる関係を築いている。第三者相談窓口や苦情については契約時に説明し、玄関に掲示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で定期的に業務会議や各委員会が開催され、その際に現状や意見等報告している。	自己評価は全職員で話し合い、主任と管理者で集約している。月2回業務会議を開き、夜勤者の朝の引き継ぎについて改善策を検討したり、希望勤務を取り入れたり、休憩時間を1時間にするなど、意見や提案を反映させている。施設長が年間の勉強会を計画し、気づきなど聴く機会を設けている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、グループ内の全職員が集合し全体朝礼があり、そこで理事長から訓示を受ける。また、勉強会も月1回開催され、近隣3施設の職員が一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢・性別に関係なく採用されている。20～60歳代までの職員が、意見を出しあい、それぞれの長所を尊重しながら介護にあたっている。	採用選考では年齢、性別に関係なく採用されている。20～60歳代までの幅広い年齢層で、いろいろな見地から意見を出しあい、それぞれの長所を尊重しながら個々の能力が発揮でき向上心を持って働ける職場づくりに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループで月に1回勉強会があり、参加している。	月1回の内部勉強会で「人権教育」や「啓発活動」について全職員が学習している。テキストと個人ノートに研修記録があり、個人のノートを時折り施設長が目を通してコメントしている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励され、適性に応じて順次研修を受けている。毎月一回勉強会が行われている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流の機会はまだないが、法人内のグループホームとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から、本人から聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、家族等にホームの雰囲気を感じて、気持ちに寄り添い安心感を持っていただけるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や入居前に利用しているサービス事業所から情報収集し、スムーズになじんでいただけるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話や家族などから利用者の好きなこと・得意なことを聞き取り把握し、それを活かすことができるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居中の現状を報告し、状況によっては家族の協力を得るようにしている。日ごろからできるだけ家族の意見をうかがえるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪ねて来られた際は、ゆったりと過ごしていただけるように配慮し、また来ていただけるような雰囲気作りもしている。	全職員は、利用者の馴染みの人や場を本人の会話や家族などから把握している。併設の特養の友人とお互いに行き来したり、家族に連絡して馴染みの知人・友人に訪問してもらったり、近隣のスーパーや事業所周辺は外出したときは挨拶を交わし、利用者との関係が途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を見極めながら、それぞれの時間を過ごしながらも、スタッフが中に入るなどしながらユニットの利用者が皆で過ごせる環境にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで退所された場合に、家族が電話や来所で今後のことを相談された場合には、状態に応じて説明を行っている。また、関連の施設や入院先にも相談を受けていることを伝える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で、一人ひとりの意向や希望を把握している。また、意思表示が困難な場合でも、表情や動きの観察に努め、スタッフ間でも情報共有している。	職員は日々の関わりの中で利用者がその人らしく暮らし続けられるよう声をかけ、思いや希望・意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、生活歴や趣味などを参考に本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や好きなことなどの聞き取りをしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中でスタッフの入れ替わりは必ず発生するので、利用者の変化や新たな気づき、些細なことでも口頭や文書で情報交換をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは本人・家族に意向などを聞き、日常生活を把握しているスタッフの気づきや意見から課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな課題が発生していないか確認している。	一人ひとりその時点に沿った本人本位の介護計画を作成し、6ヶ月に1回及び状況変化に応じて随時の見直しを行っている。作成した介護計画案を、利用者・家族等へ報告し、意見をもらい了承を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	発言や動き、表情など具体的に記入するようにしている。記録を共有し、ケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に、特養・デイ・在介等の事業所を運営しており、情報を共有しあい、また相談に乗ってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回ボランティアの方が来られ、壁掛けの飾り物を作成したり、歌をうたって過ごされる。中学校の職場体験の受け入れにも進んで協力している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は、説明をして同意を得ている。入居前からの認知症専門医など受診意向があれば、そちらを優先し、家族や医療機関に情報提供を行っている。	利用開始時に協力医療機関について説明し、かかりつけ医として希望する場合は同意を得ている。内科・歯科は協力医療機関が全利用者のかかりつけ医となっている。通院は、家族等と介助・情報伝達の方法などについて合意しているが、家族等の都合や利用者の状況によっては柔軟に対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、同敷地内の看護職員に状況を報告、相談しアドバイスを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院となった場合には、家族に確認した上でホームでの状況を入院先に伝えている。入院中の状況を家族や入院先と連携を取っていき、スムーズな退院に繋がれるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、運営規定内に明記している。状態に応じて家族への説明を行い、意向を確認しながらかかりつけ医と連携を取っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針はあるが、明文化するまでに至っていない。事業所が対応し得る最大の支援方法について、折に触れて説明するようにしている。	重度化や終末期のあり方については、対応方針に沿って明文化して欲しい。また、利用開始の早い時期に全利用者・家族等へ説明して欲しい。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や緊急時のマニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回同一敷地内の特養と合同で避難訓練を実施している。備蓄品については、特養から相互援助の形を取っている。また、利用者の身体機能など状態に応じた避難対応を検討している。	マニュアルを作成している。避難訓練は、母体法人と合同で年2回、消防署の協力を得て消火器の使い方等と併せて行っている。運営推進会議を通じて近隣に呼びかけている。食料や飲料水、備品は隣接の特養に準備しており、非常時にはすぐに使用できる体制である。	事業所内に非常用備品を準備していただきたい。
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、声掛けを行っている。プライバシーにも配慮している。声の大きさや語調にも注意し、出来ないときや馴れ合いになったりしているときは、スタッフ同士指摘をしている。	職員は、あからさまな介護や誘導の声かけで利用者を傷つけないようさり気ない言葉かけや目立たない対応に配慮している。不適切な言動があった場合は主任や職員同士が注意し合うようにしている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意向や要望を聞いている。思いを伝えることが十分にできない場合でも、一緒に行動したり、ちょっとした言動をキャッチして自己決定につながるようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が気が向かないときは無理強いせず、したいときにいつでもできるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪が定期的に来所している。なじみの理美容院がある場合は、外出も兼ね家族が来所される。入浴の際は、洋服選びを一緒にすることもある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものや調理法、味付けなど利用者の知恵をいただいている。一緒に食事を楽しみ片付けを協力していただいている。	職員は利用者と一緒に同じものを同じテーブルで介助しながら食べ、一緒に片づけをしている。食事が美味しい時間になるよう献立を話題にしたり、利用者の嗜好にも配慮した品ぞろえをしている。誕生日には赤飯を用意するなど配慮している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して偏りがないようにメニューを組んでいる。既往歴や体調、意向に応じ食事形態や量を柔軟に変化させている。水分は三食時と起床時や10時・15時など最低6～7回提供し、他要求や体調に応じ対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行い、義歯の洗浄も定期的実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に繋げている。訴えが少ない利用者には、動きはや間隔をみてスタッフが声掛けし、訴えがある場合は速やかに対応している。	日中のおむつ使用者はいない。尿意のない利用者には排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導するなど、排泄の自立に向け支援している。失禁した場合は周囲に気づかれないように対応するなど配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身を動かす体操を行っている。腹部マッサージを行うこともある。食物繊維や乳製品も提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の身体機能や負担感、安心感を考慮した時間帯に入浴対応している。拒否がある場合も、時間をずらして声掛けしたり、曜日を変えて対応している。また、夏場は日数を増やし、清潔保持に繋げている。	お風呂は毎日沸かしている。基本的には週2回午後からの入浴となっているが、利用者の希望により毎日でも入浴できる。入浴拒否の利用者には臨機応変に言葉かけのタイミングを計り意向、希望に応じて入浴ができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、傍についたりして対応している。生活パターンを把握し、入眠の援助を行っている。夜間充分な睡眠がとれなかった方には、昼夜逆転にならない程度で午睡を促したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や説明書はスタッフがいつでも見ることができるよう収納している。薬の追加や変更があれば申し送りをし、副作用などの説明も行っている。また、服用後変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	うたったり、テレビでスポーツ観戦など利用者同士が、一緒に楽しめる時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に、戸外に散歩に出かけることがある。定期的なドライブの機会も設けている。また、家族との用事等で外出される場合は、スムーズにいくよう支援している。	初詣や市内のさげもん祭り、花見などに出かけている。2～3ヶ月に1回隣接施設のイベントに行ったり、2～3ヶ月に1回または希望時に散歩に行ったり、ウッドデッキへは2日に1回出るなどしている。買い物などの希望もないため出かけていない。	一人ひとりの状況に合わせて本人の希望を汲み取り、外出の機会を増やして欲しい。
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身でお金を管理している方もいる。買い物の要求などがある場合など対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などから電話・郵便物があれば、取り次いでいる。本人から電話の依頼がある場合は、対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキ・中庭に出ることができる。花や木を見て季節感を感じたり外気浴を楽しんでいただくことができる。カーテンで採光の調整をし、温湿度計を設置し心地よく過ごせるようにしている。	明るい共用空間にはソファがあり、利用者がゆっくりとくつろげる場所となっている。壁面には絵画・季節の造花・ボランティアの方々の作品やケースに収められた柳川まり等がさり気なく飾られている。にのいい色・音・光にも配慮し、居心地よく工夫している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルの椅子に座り、思い思いに過ごしていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家族の写真などを置き、また季節に応じて、家族に寝具・衣類の入れ替えをしていただき、利用者にとって過ごしやすい空間作りに努めている。	居室は家族の写真や時計、テレビ、収納ケース、小物入れの持ち込みがある。ボランティアの方からの小物なども掲示されており、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・脱衣室等に手すりが設置され、利用者が移動の際利用している。また、動線上に安定感のある家具が配置され、移動の際に活用することもある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝・夕の申し送り終了時にグループホーム理念及び基本理念を唱和し、スタッフ全員が同じ気持ちで介護に取り組めるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1～2か月に1回の慰問はあるが、日常的な交流はない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の中学生の職場体験の受け入れがあり、認知症高齢者に対する理解や日常生活をみてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議には、利用者・家族、民生委員、老人会の方に出席して頂いている。スライドを利用して行事等ホームの生活を報告、また認知症への理解を深めて頂けるような勉強会を行っている。参加者から、意見や質問が上がり、それらはサービスの向上・改善につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の福祉課や地域包括支援センターの職員に出席して頂いている。行政側から現状の報告を受け、ホーム側からは取り組み等を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会が有り、スタッフ一人ひとりが身体拘束をしない介護を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等において、何が虐待にあてはまるか勉強している。自己の言動を振り返り、介護にあたっている。スタッフ間でも注意しあっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等において、成年後見制度について学習している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際して重要事項説明書などの書面を提示しその内容を説明し、理解・納得して頂いている。また、説明書等の内容が変更になった場合や身体機能面など状況に変化があった場合も家族の意向・要望などを確認しながら説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の寮母会議で疑問点や改善点を一同で検討し、業務に反映させている。また、日々のケアの中で利用者のケアに柔軟に対応できるように、適宜状況報告・意見交換を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同敷地内の事業所で定期的に業務会議や各委員会が開催され、その際に現状や意見等報告している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、グループ内の全職員が集合し全体朝礼があり、そこで理事長から訓示を受ける。また、勉強会も月1回開催され、近隣3施設の職員が一同に研修を受けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢・性別に関係なく採用されている。20～60歳代までの職員が、意見を出し合い、それぞれの長所を尊重しながら介護にあたっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	敬和苑グループで月に1回勉強会が有り、参加している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を奨励され、適性に応じて順次研修を受けている。毎月一回勉強会が行われている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域近隣のホームとの交流の機会はまだないが、法人内のグループホームとの交流はある。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から、本人から聞き取りを行い、信頼関係の構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談を受けた段階で、家族等にホームの雰囲気を感じて、気持ちに寄り添い安心感を持っていただけるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や入居前に利用していたサービス事業所から情報収集し、スムーズに馴染んでいただけるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話や家族などから利用者の好きなこと・得意なことを聞き取り把握し、それを活かすことができるよう支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居中の現状を報告し、状況によっては家族の協力を得るようにしている。日頃から出来るだけ家族の意見を伺えるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪ねてこられた際は、ゆったりと過ごしていただけるように配慮し、また来ていただけるような雰囲気作りもしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を見極めながらそれぞれの時間を過ごしながらも、スタッフが中に入るなどしながらユニットの利用者が皆で過ごせる環境にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などで退所された場合に、家族が電話や来所で今後のことを相談された場合には、状態に応じて説明を行っている。また、関連の施設や入院先にも相談を受けていることを伝える旨を説明している。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で、一人一人の意向や希望を把握している。また、意思表示が困難な場合でも、表情や動きの観察に努め、スタッフ間で情報共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴や好きなことなどの聞き取りをしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で、スタッフの入れ替わりは必ず発生するので、利用者の変化や新たな気づき、些細なことでも口頭や文書で情報交換をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは本人・家族に意向等を聞き、日常生活を把握しているスタッフの気づきや意見から課題・目標を設定している。定期的な見直しの際には、新たな課題が発生していないか確認している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	発言や動き、表情など具体的に記入するようにしている。記録を共有し、ケアの見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内に、特養・デイ・在介等の事業所を運営しており、情報を共有し合い、また相談にのってもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回ボランティアの方が来られ、壁掛けの飾り物を制作したり、歌をうたって過ごされる。中学校の職場体験の受け入れにも進んで協力している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の協力医療機関（内科・歯科）をかかりつけとする場合は、説明をして同意を得ている。入居前からの認知症専門医等受診意向があれば、そちらを優先し、家族や医療機関に情報提供を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、同敷地内の看護職員に状況を報告、相談しアドバイスを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院となった場合には、家族に確認した上でホームでの状況を入院先に伝えている。入院中の状況を家族や入院先と連携を取っていき、スムーズな退院に繋がれるよう支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について、運営規定内に明記している。状態に応じて家族へ説明を行い、意向を確認しながらかかりつけ医と連携を取っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や緊急時のマニュアルを作成している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回同一敷地内の特養と合同で避難訓練を実施している。備蓄品については、特養から相互援助の形を取っている。また、利用者の身体機能など状態に応じた避難対応を検討している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重し、声掛けを行っている。プライバシーにも配慮している。声の大きさや語調にも注意し、できていなかったり馴れ合いになっている時は、スタッフ同士指摘をしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、本人の意向や要望をきいている。思いを伝えることが十分にできない場合でも、一緒に行動したり、ちょっとした言動をキャッチして自己決定につながるようにして。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が気が向かないときは無理強いせず、したいときにいつでもできるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理髪が定期的に来所している。なじみの理美容院がある場合は、外出も兼ね家族が来所される。入浴の際は、洋服選びを一緒にすることもある。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものや調理法、味付けなど利用者の知恵をいただいている。一緒に食事を楽しみ、片付けを協力していただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して偏りがないようにメニューを組んでいる。既往歴や体調、意向に応じ食事形態や量を柔軟に変化させている。水分は、三食時と起床時や10時・15時など最低6～7回提供し、他要求や体調に応じ対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行い、義歯の洗浄も定期的実施している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に繋げている。訴えが少ない利用者には、動きや間隔を見てスタッフが声掛けし、訴えがある場合は速やかに対応している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操と全身を動かす体操を行っている。腹部マッサージを行うこともある。食物繊維や乳製品も提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	利用者の身体機能や負担感、安心感を考慮した時間帯に入浴対応している。拒否がある場合も、時間をずらして声掛けしたり、曜日を変えて対応している。また、夏場は日数を増やし、清潔保持に繋げている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、傍についたりして対応している。生活パターンを把握し、入眠の援助を行っている。夜間充分な睡眠がとれなかった方には、昼夜逆転にならない程度で午睡を促したりしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や説明書はスタッフがいつでも見ることができるよう収納している。薬の追加や変更があれば申し送りをし、副作用等の説明も行っている。また、服用後変化があれば、担当医に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌ったり、テレビでスポーツ観戦など利用者同士と一緒に楽しめる時間を作っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に、戸外に散歩に出かけることがある。定期的なドライブの機会も設けている。また、家族との用事等で外出される場合はスムーズにいくよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自身でお金を管理している方もいる。買い物の要求がある場合など対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人などから電話・郵便物があれば、取り次いでいる。本人から電話の依頼がある場合は、対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからウッドデッキ・中庭に出ることができる。花や木を見て季節感を感じたり外気浴を楽しんでいただくことができる。カーテンで採光の調整をし、温湿度計を設置し心地よく過ごせるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやテーブルの椅子に座り思い思いに過ごしていただいている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品や家族の写真等を置き、また季節に応じて、家族に寝具・衣類の入れ替えをしていただき、利用者にとって過ごしやすい空間作りに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・トイレ・脱衣室などに手すりが設置され、利用者が移動の際利用している。また動線上に安定感のある家具が配置され、移動の際に活用することもある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の 2 / 3 くらいと
				③ 家族の 1 / 3 くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に 1 回程度ある
				③ たまにある
			○	④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の 2 / 3 くらいが
				③ 職員の 1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の 2 / 3 くらいが
				③ 利用者の 1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の 2 / 3 くらいが
				③ 家族等の 1 / 3 くらいが
				④ ほとんどいない